

2021年5月11日

立命館大学体育会クラブの皆さんへ

立命館大学

学生部長 中西 純司

緊急事態宣言の延長に伴う「警戒心を強めた行動」の徹底について

新型コロナウイルス感染症に対する感染防止対策においては、皆さんは、日頃から練習や試合、そして日常生活での様々な場面において制限や拘束を自らに課して実行し続けていることと思います。また、変異株の感染も拡大し始めるなど、新型コロナウイルス感染症の影響が長期間にわたり、競技力向上に対するモチベーションを維持することやコロナ感染対策に取り組み続けることに対して大きな不安や困難を抱えている人も多いかと思えます。

大学としては、皆さんのこのような自主的な取り組み、また日頃からの感染対策の遵守と徹底を信頼し、今次の緊急事態宣言の「延長」(5月12日から5月31日までの予定)を受けても、6月6日まではBCPレベル「3」に対応した「通常練習・公式戦参加」を継続することを決定しました*。

しかしながら、今次の緊急事態宣言の「延長」は、「若い世代における変異株の感染比率の増加」や「3つの密(換気の悪い密閉空間、多数が集まる密集場所、近距離での会話や発話が生じる密接場面)が揃う場でない状況でも感染する事例がみられること」などを考慮したうえでの厳しい決定であり(大学等への文部科学省事務連絡、令和3年5月7日)、今まで以上の「警戒心を強めた行動」の徹底を私たちに強く求めています。

そのためには、これまでも繰り返し注意喚起をしてきたことですが、①多人数での飲み会の開催やそこへの参加、②いい加減な体調管理(ONE TAP SPORTSの未入力)、③練習前・中・後にかかわらずマスクを着けずに近距離で会話する、④換気のできていない屋内でのミーティング、⑤食事中にマスクを外して会話する、⑥鼻出しマスクなど、自分たちで定めた感染対策ルールに違反するアンフェアな行動をとらないように徹底する必要があります。こうしたアンフェアな行動は、「気の緩んだ」一部の学生のことと思う人もいるかもしれませんが。しかし、このような行動は、日頃から皆さんのクラブ活動を一緒に支えている多くの支援者の期待や信用を裏切る自分勝手な行為であり、非常に残念な出来事でもあります。

そして、このような状況下においては、一部の学生(部員)の勝手な行動として放置することはできません。その部員は皆さんの大切なチームメイトであり、同じ体育会を構成するメンバーですから、お互いが注意しあい、意識を高めていかなければなりません。

現に、こうしたアンフェアな行動をしたことで、この間、クラブ内でクラスター感染が発生し、自分たちの好きなスポーツ活動を停止・中断せざるを得ない判断となったクラブも

あります。もし今後、このようなことが複数のクラブで生じると、体育会クラブ自体が感染拡大を促進するような課外自主活動であると判断され、感染拡大を防止するためには「通常練習・公式戦参加」にもさらなる厳しい制限と拘束を加えていく必要もあります。

それゆえ、皆さん一人ひとりが、さらに丁寧な感染対策を徹底・強化していくとともに、大学や各競技団体等が示したガイドラインを踏まえて主体的に作成し決定した感染対策ルールを遵守し続けていくことは、何よりも警戒心を強めた行動であり、「自分も感染しない、大切な人や仲間にも感染させない」という自己規律的な行動でもあります。

今まで皆さんが積み上げてきた、感染対策ルールの徹底は、スポーツ強化オフィス一同が誇りに思っていますし、今後も必ず継続していくことができるはずです。先が見えない中で1年以上も、自分自身への心身の制限や拘束を続けることはとても大変なことです。が、「継続は力なり」をモットーとする立命館大学の体育会学生ならば必ずできると信じています。そして、皆さんがしっかりと感染対策に取り組み続けることで、クラブ活動内でのクラスター感染の発生を抑えるとともに、立命館大学の他学生の手本（学生ロールモデル）となることを大きく期待しています。

最後に、新型コロナウイルス禍のなかで、何か不安や不明なことがあれば、いつでもスポーツ強化オフィスまでご連絡ください。

以上

*今後の感染状況や本学園の法人危機対策本部会議の方針等によっては、上記方針を変更する可能性があります。また、6月7日以降の方針については、あらためてお知らせします。